



中村修三画

- 渋谷生態学と自然・地域を守る運動  
・しぶや榎の由来  
真鍋宗平
- 「フランソア」  
水野 勉
- 一一〇〇三年の新春に  
編集委員会
- 京都帝国大学の生態(二)  
山内 年彦
- 燎原文芸  
黒住嘉輝
- 編集後記

## 渋谷生態学と自然・地域を守る運動

近年のエコロジー・ブームがおきる前から生態学の研究をもとにした環境論——人々のくらしの場である地域の自然を重視した——によつて、自らフィールド調査に参加し、住民運動をリードした生態学者・渋谷寿夫さんが亡くなられました。それから十数年余経ちます。

それを前後して、JR京都駅とか京都ホテルとかの出現に象徴されるように、山紫水明とうたわれた京都の自然の破壊は、「嵯峨川府政落城」後に特に顕著です。

氏は専門の『生態学の諸問題』、『理論生態学』を著すとともに、「民科」生物部会、日本農業生物学研

### しぶや榎の由来

真鍋 宗平

渋谷寿夫先生は一九六七年夏に京都府乙訓都大山崎村殿山に移り住みました。京都府が造成した円明寺団地の第一期分譲による入居でした。渋谷先生が入居する直前の春、村は天王山の山頂に計画さ

れた観光開発の問題で揺れ、小山伸一氏が初めて共産党村議に当選しました。六三年名神高速道路、翌六四年新幹線の開通。通過交通は天王山の緑を脅かし、狭い地域を蹂躪し、この地域にも高度経

成長の「バスに乗り遅れるな」という風潮が席卷していました。同

年に十一月に村は町制を施行し、計画戸数千七百におよぶ大規模団地の出現で、面積わずか六平方キロの小さな町の人口はたちまち急増しました。六五年の三、八五二人から、七十年には一〇、三六五人、そして七五年には一四、九六六人へ。

わずかな期間に四倍増したのです。生態学者・渋谷寿夫先生にとって、

とりわけ見過せないことの多い時代でした。だから、渋谷先生を代表にして「大山崎明るい民主町政をすすめる各界連絡会」が結成されたのは、ごく自然な成り行きでした。町の変化はひたすら慌ただしく、課題が次々にあらわれました。この頃町内で、小泉橋の架け替えにあたり、川沿いの榎を切る計画が出ました。これに対しても渋谷先生は、この樹が団地入口のシンボル的な景観になつていることなどを指摘し、強く反対しました。

府に善処方を求め、近隣住民にも働きかけ、その結果ようやく榎は伐採を免れました。いま団地名を刻んだ石碑に影を落としている巨樹がそれで、団地住民は「しぶやえのき」と呼んでいます。六九年頃のことでした。

究会等での民主的科学者運動のリーダーとして活動しながら、学校教育や府市民への啓発活動に積極的に参加しました。前者では京都理科サークル、後者では「京都民報」の「京都の動物」連載等です。その頃から、京都北部のフィールド調査（森本博士報告）やご自宅の大山崎での「しぶや榎」（真鍋宗平さん報告）の話題は有名です。

自然に学び、守ることがきわめて重要な政治課題として登場してきたことになり、氏の活動から学ぶ意義は大きいものと思います（小田切）。

生态学者・渋谷寿夫先生にとって、とりわけ見過せないことの多い時代でした。だから、渋谷先生を代表にして「大山崎明るい民主町政をすすめる各界連絡会」が結成されたのは、ごく自然な成り行きでした。町の変化はひたすら慌ただしく、課題が次々にあらわれました。この頃町内で、小泉橋の架け替えにあたり、川沿いの榎を切る計画が出ました。これに対しても渋谷先生は、この樹が団地入口のシンボル的な景観になつていることなどを指摘し、強く反対しました。府に善処方を求め、近隣住民にも働きかけ、その結果ようやく榎は伐採を免れました。いま団地名を刻んだ石碑に影を落としている巨樹がそれで、団地住民は「しぶやえのき」と呼んでいます。六九年頃のことでした。

その後、乙訓地域では表流水の導入をはかる政策的な動きが強まり、住民世論の活発な反対が台頭しました。そのさいに、このときの「公水」をめぐる論戦が世論の強い根拠になり、今日に統く地域の人々の「水」に対する思い入れを支え

続けました。

神谷町政の後に続いた歴代町政は急速に民主町政との隔阂を生じるようになっていきました。そのため渋谷先生は選挙の度に、小さな町の政治に立ち会う苦労を強調されました。ある時は不祥事に対抗し、ある時は提携関係の不本意な修復に奔走し、学問の世界とはおよそ遠いできごとに、ひとつひとつていねいに対応していた当時の先生の姿を思い出します。先生の気苦労は七十年代半ば以来、果てしなく続きました。一九八六年三月二七日に先生が急逝され、その年の十二月に行われた町長選挙で民主町政の会は小山伸一さんを擁立しました。会が独自の候補

を立てた初めての選挙にあたって、支持母体を代表するべき先生の姿はありませんでした。けれども、大山崎町における民主陣営の歩みは続きました。

二〇〇二年十月に行われた選挙で、大山崎町の共産党は新人二人を含む六人の町議を得て議席占有率で全国一になりました。初当選した渋谷さんは渋谷先生の長男で、造成から三十六年を経た「団地の再生」を訴えました。選挙期間中の早朝、いつも「しぶやえのき」の下に立つて、道行く人に挨拶する候補者、進さんの姿がありました。（まなべ そうへい）

乙訓郡大山崎町在住）

## フィールド調査とともに

森本 博

### 一 先生の思い出

渋谷寿夫先生との最初の出会いは、学校を出て最初の就職さきであつた滋賀県の膳所高校に赴任した後、折りを見て京都大学理学部の徳田

二度目の出会いは、その後転勤を重ねて三重県の上野高校に在職しておったときに、先生から「木津川上流の川上ダム建設にかかわっての生態環境調査をするようになったが手伝ってくれないか」（一九七六年）とおさそいをうけたときである。その後奈良市の河川調査を引き受け、ずーと亡くなられるまで（一九八六年）ご一緒に生じました。（奈良市の河川調査は今も続いている）

先生は水生生物の採集調査をするときには、「回りをしつかり見る」「流れの中央部だけでなく岸にそつた落葉の堆積物その他、できるだけ多様な微生息場所(microhabitat)から生物を集めるようにする」。このことを常に強調されていた。生物はそこで、単に生きているだけでなく生活しているのである。これが先生の研究の背骨であった。生物のよりどころは細胞であるが、生活のよりどころは“種”である。ですから、生物を具体的に見るには種の生活様式を明らかにすることが大切である。というのが先生の真情であった。

御稔研究室へ勉強をしに行つておったころである。この研究室には渋谷先生も顔を出してみえた。今から五十年も前のことである。そこでは徳田進化学と渋谷生態学の両方の勉強ができたのであった。

### 二 渋谷生態学

“生態系”という言葉はいまや生物学の範疇をこえて一般化し、新

聞紙上にも随所に出てくるこのごろである。だが、その中味はいかにも生物のことをいっているようであるが、もう一つ生物の生きざまが具体的に生き生きと見えてこない。という焦燥感のようなものに駆られたことはありませんか。一つの地域の生態系とは、その地域の自然を総体としてあらわすべきものである。この総体をいかにとらえるかということを具体化するなかで問題が生じるのである。そこには単に物資系としての流れがあるだけではなく、具体的な生物の生きざまがあるからである。所謂生態系の概念からは、この生物の生きざまが見えて来ない。“種”的生活が見えてこないのである。

渋谷先生はここのことろを問題にされた。生物と環境の関係はどうなっているのだろうか。“環境の主体”とはなにか？“生物”である。つまり生物がそこで何をしているかが問題なのである。エルトンは「動物の生態学」(渋谷訳)の中で「その動物が單に何のよう見えるかではなく、何をしているかを示すために、何かの用語をきめておくのは便利である。そのために使用されるのが“生態学的地位”(ecological niche)である。一つの動物の“生態学的地位”と

いえば、その動物の生物的環境における位置、その食物ならばに敵にたいする諸関係、をいみする。生態学者は動物をこの観点からみる習慣を、その外観、名前、類縁関係、過去の歴史といった通常の見地からする習慣と同じように、養わなければならない」といつてゐる。動物がそこで「何をしていいか」つまり“種”的生活がある

渋谷先生の定義によれば「生態学とは生物の生活についての科学である」（生態学の諸問題）といふことになる。

れば工事中だけそれをちょっと他所へ避難させておいて元に戻せばよいとか、ということになる。天然記念物もそれだけで生活しているのではない。まわりにポピュラーな生物がおればこそである。避難して帰つて来た時にその動物の飼があるのかどうか、その植物を育てる群落があるのかどうか。

先生は病気になられた時に、主治医にたいして「動物の栄養は消化管から吸収するのが本筋であつて、『静脈栄養』は邪道だ」と説教されておつたとか。先生は末期には意識不明のまま長く静脈栄養をされてみえたが、さぞかし不本意であつたろうとお察し申しあげる（よりもと ひろし 三重県在住）

化管から吸収するのが本筋であつて、『静脈栄養』は邪道だ」と説教されておったとか。先生は末期には意識不明のまま長く静脈栄養をされてみえたが、さぞかし不本意であつたろうとお察し申しあげる（もりもと ひろし 三重県在住）

「フランス」

水野  
勉

十五日早朝のNHKテレビは京都・四条河原町の喫茶店「フランソア」が国の有形文化財として登録されることを報じた。喫茶店の文化財登録は初めてのことだそうで、か

れこれ五十年近くも京都へ行けば必ず寄ってきた「フランソア」の値打ちが正当な評価を受けたことに深い感慨を覚えずにはおれなかつた。

二十代の後半か三十代にかけての私にとって喫茶店は、こよなき取材の場であり執筆の場であつた新橋から数寄屋橋へ向かう銀座八丁目の事務所へ通つていた頃、近くに「門」という、なんとも気分が落着く喫茶店があつて、毎日のように出かけて仕事をした。朝から夕方までの間に何人もの人と逢いながら、二十枚も三十枚も原稿を書いた。時には東宝のスター女優山根寿子が経営していた六丁目の「田園」を使つたこともあつたし疲れたら五丁目の音楽喫茶「白馬車」のドアを押してシャンソンやタンゴの旋律に聞きほれたものだ。

そうした喫茶店とは違つて、「フランソア」は私にとって特別のゆかりのある喫茶店だった。そのゆかりは、戦後間もなくの頃、「フランソア」の経営者立野正一さんとの出会いに始まつた。その頃、私は神田錦町河岸の図書取次店で働いていたのだが、その取次店に立野さんが時々、本の仕入れに通つてこられた。「フランソア」の経営者である立野さんは、店の入口に「ミレー書房」というささやかな書店も開いていたのだ。すらりとした長身にまとつた立野さんのスリーツ姿は、まだまだ国民服や軍服姿が多かつた当時では、なん

二十代の後半か三十代にかけての私にとつて喫茶店は、こよなき取材の場であり執筆の場であつた新橋から数寄屋橋へ向かう銀座八丁目の事務所へ通つていた頃、近くに「門」という、なんとも気分が落着く喫茶店があつて、毎日のように出かけて仕事をした。朝から夕方までの間に何人もの人と逢いながら、二十枚も三十枚も原稿を書いた。時には東宝のスター女優山根寿子が経営していた六丁目の「田園」を使つたこともあつたし疲れたら五丁目の音楽喫茶「白馬車」のドアを押してシャンソンやタンゴの旋律に聞きほれたものだ。

そうした喫茶店とは違つて、「フランソア」は私にとつて特別のゆ

とも垢抜けて粹に映つた。若い頃は河上肇博士の書生をされていたことは聞いていたが、そもそもは画家を志しておられたのに果たし得なかつたとかで、名画「晩鐘」で有名なフランスの画家ジャン・フランソア・ミレーにあこがれ、その人の名にちなんで喫茶店には「フランソア」、書房には「ミレー」を名付けたということは、今夜初めて知つたことだ。「京都市下京区四条小橋西詰南」という宛名を毎日のように書いて張りつけた小包を、リヤカーで秋葉原駅まで運んで発送したものだが、住所変更があつたとみえて今は「京都市下京区西木屋町通四条下ル」となつている。

(5) 2003年1月15日

## 燎原

ない貴重な役割を果たしてきた。  
私が初めて「フランソア」を訪れたのは、確かに四八年の晚秋の頃、集金旅行で「ミレー書房」へ立ち寄った時だったと思う。早朝の京都駅にわざわざ出迎えてくれた立野さんと「四条河原町」まで市電で行き、店に着くと立野さんは「寒かつたやろ」と言いながら、「フランソア」の入口に近いポックスに私を座らせ、電気ストーブのスイッチを入れ、その上でパンを焼き、暖いコーヒーを入れてくれた。そのコーヒーのなんと美味かったことか。何分、早晨のこととて店内は薄暗く、「フランソア」特有のステンドグラスの窓や、ヨーロッパ風のランプ、赤いビロード張りのシックな椅子などは、その時は気付かないままに立野さんの暖かさに見送られながら大阪へ向かった。

やがて「ミレー書房」は立野さんの手から離れ、私の仕事も変つたので仕事上の直接の関係はなくなったが何時しか京都へ行つたら必ず「フランソア」のドアを押し

てコーヒーを飲むようになつた。



くようになつたが、行けば必ず「フランソア」に立ち寄り、一杯のコーヒーで無遠慮に二、三時間も原稿を書かせてもらつたりした。立野さんはいつも、「やあーしばらく、お元気で」と、微笑しながら手を差しのべてくれた。その立野さんの姿も何時しか見えなくなつたが、私の「フランソア」通いだけは続いた。今時こんなぜいたくな喫茶店が何時まで続けていられるだろうか、そのうちまわりの店舗や仕舞屋などとともに取りこわされてしまうのではないかといふ不安を感じていたのだが、文化財に指定されたからには、どうやら当分は大丈夫だろう。そういうふうに思ふと、立野さんとの別れが、そのうちまた行つてみよう。

(みずの つとむ 東京在住)

編集委員会

## 一一〇〇三年の新春に

歴史のテンポが早くなつてきたようです。二〇〇一年の九月十一日にニューヨーク世界貿易センター・ビルへのアルカイダによるといわれるテロ攻撃があると、間もなくアフガン戦争がはじまり、それが終わつたかと見えたら今度はイラク攻撃の予告です。それに海上自衛隊の補給艦・護衛艦に加えてイージス艦までがインド洋に派遣されました。急テンポのまるで連鎖反応のような動きです。

バブル崩壊後の不良債権解消をめざして「改革」を一枚看板にした小泉内閣は、何ひとつ「改革」できぬ間に、不良債権はかえつて増加しました。ちまたには失業者とホームレスの増加が目だち、新卒予定者の就職は困難をきわめています。「いつか来た道」ということばを軽々しく濫用したくないのですが、事ここにいたつてはやはり口にせざるをえません。まさに第二次大戦前夜にそつくりの情勢です。かつてナチス・ドイツがポーランドに侵入して電撃作戦を展開し、パリが陥落するまで九ヶ月しかかりませんでした。その情勢を見た日本では「新体制」の名の下に「改革」を強行しようとし、ついに対米英開戦へと進んでしまつたのです。

ただ希望はあります。国民主権と戦争放棄を高らかに宣言した日本国憲法の存在です。国民が目ざめれば、政治を変え経済をあらためることができます。戦前との大きなちがいです。歴史を学ぶことでその希望を育てることができるでしょう。二〇〇三年の新春をむかえ、京都の民主運動史を語る会もささやかながら希望のともし火をかがやかそうと心をあらたにしています。その火がやがて「燎原」にもえひろがることを信じて!

## 京都帝国大学の生態（二）

山内 年彦

### 第三章 文部大臣室（滝川事件）

いわゆる滝川事件は昭和八年に起つた。昭和三年の河上事件のあと京大は一時静かとなつたが、当局の期待に反して自由主義の傾向は一向衰えることなく禁止された社研の活動は潜行的となってきた。

時の首相は斎藤実大将で文部大臣は鳩山一郎であった。滝川事件の経過は次の通り。

三月二十二日 小西重直文学部教授が総長に公選される。

四月一〇日 法学部教授滝川幸辰の著書「刑法読本」が内務省より発禁される。

四月二十二日 文部省は省議により滝川教授の辞職を京大当局に勧告する。

五月二十五日 文部省は滝川教授休職を発令する。即日法学部教授会が宮本英雄法学部長を議長として開かれ十六名の全教授が総辞職を決議する。これに殉じて助教授九名、講

師三名、助手四名、副手二名も辞意を表明し計三十四名が辞表を提出。

六月二十五日 小西總長辞職する。

七月七日 理学部教授松井元興総長に公選。

七月一〇日 松井總長東上し文部当局と滝川事件に関して協議する。その結果、法学部再建が実行に移される。

この事件の発端となつた刑法読本であるが、古来日本では亭主が二号、三号を持つたとしても非難はなかつたが妻が他の男と通ずると刑法の対象とされた。滝川教授は近代的法理論の常識から姦通罪は不合理であると論評したのであつて発禁になるまではだれも、この本を問題にしなかつた。旧道德の支持者で滝川を非難する人もあつたが少數で問題にはならなかつた。京大では従来、大学自治の精神から教官の任免はすべて教授会の決議を必要とするこになつてゐる。だから文部当局は一応滝川追放を

京大に内示した。京大当局が優柔不斷で結末をつけず、ぐずぐずしているうちに学内に反対運動が巻き起こり、騒ぎが大きくなつてきましたので文部当局は業を煮やし辞職休職を発令した。この無理強いはただで治まるものではなかつた。勧告一ヶ月後に一方的に滝川教授を解雇した。この無理強いは休職を発令したものではなかつた。

さて京大で騒ぎが大きくなつた最中に専門学務局長灌田治輔が文部大臣に呼び出された。局長が大臣室に入ると鳩山大臣は横の安樂イスの上にかけてあつた見事な黒クマの毛皮（少し前まで京大總長室においてあつたもの）にちよつと眼をむけたのち――

大臣「さて先般命じた京大に対する処置がうまく運ばぬようだが、本件は重大であるので全体の計画や京大の内部事情等をもう一度くわしく説明してくれないか」

局長「鳩山閣下、実は滝川教授は純情で物事をかくさず言う好感のもてる学者であります。発禁となつた刑法読本で婦人の地位を擁護していますが彼はなかなかのフエミニストでもあります。刑法読本の姦通罪が問題とされたのであります。ですが彼の考え方は万国共通の常識を述べたにすぎず、彼の思想は危険でも何でもありません」

大臣「それでは当局はなぜ滝川

をいびり廻すのかね。何か深い理由がありそうだね。」

局長「大臣はよく岡星を当てら

れました。御承知の通り京大は從来、

自由主義の傾向が強く赤の温床とみなされ一部教授や学生に共産主義者がいるとうわざされています。

去年の河上事件で赤は一掃されたはずであります。が禁止された社研の学生は相変わらずアジ行動をやめないので京大当局も困っています。

その原因を色々せん策いたしました。結果、京大不安の元凶は法学部教授末川博とわかりました。末川は私と同様、山口県出身で河上肇の夫人の妹を妻としています。これがだけならよろしくありますが、

彼は共産党の理論マルキシズムの信奉者で赤のシンパであります。そのため彼は非合法の社研の学生を陰に陽に擁護しております。京

大を洗つて正常な大学にもどす最

も有効な手は末川を学園より追放することであるとの結論に達し、

末川追放の手段をいろいろ考慮いたしましたが、末川は元來要領が

よくなかなかしつ尾を出しません。

かつ彼は法律学者として有名で多

くの有能の弟子を育成したし、関

西財界にも彼の支持者が相当数お

ります。右の次第で当局が足ぶみをしていく際に滝川の刑法読本が

## 原 燐

出版され治安当局により発禁となりました。文部当局は、これを利用したのであります。実は滝川自

信も刑法読本も前に申し上げまし

たように問題はなかつたのであり

ますが、もし彼を学園より追放す

る計画が公となれば末川は必ず大

学における言論の自由と自治を守

るために滝川追放反対に立ち上が

るであります。当局が強引に

滝川追放を断行すれば、末川は必

ず文部省に抗議のため辞表を出し

て学園を去るであります。ここ

がわれわれのねらいであります。」

大臣「君はなかなかのやり手だ

なあ。末川と同県人だそうだが同

郷人のよしみとして末川がかわい

く休むがよい。」  
四月二十二日滝川教授の辞職勧告が行われて小西総長の辞職まで二ヶ月の月日が空費された。この間に学内では教官、学生の反対運動が渦巻き、優柔不斷の小西総長は反対運動と文部省の強腰にはさまれてノイローゼとなり総長を辞職するに至った。法経卒業者の団体からは学内混亂が長びくと勤め人は困るので事件の早期解決の圧力が京大当局にかけられた。また教官たちの反対運動は学生に波及し、当初、法経学生中心の運動に文科、哲学科、動物学科、物理学科の学生たちである。動物学の学生の人（朝山新一）は総長や当局の弱腰を攻撃するだけでは文部当局は涼しい顔をしておられるので大学当局学生が一丸となり文部省と対決せよと提唱し、全学共斗の機運が高まってきた。哲学、動物学、物理学は黄白と緑の薄い理念の学問であるが、これら学科の学生は平素、合理的思索に訓練されてい

る。一方で一身の利害を超えて、学園における「教える自由と学ぶ自由」を勝ちとるため立ち上がったのである。大臣「よくわかった。承知した。今日はご苦労であった。帰つてよい申し上げます。」

五月二十五日の教授会で辞意を表明した三十四名の教官の中で宮本英雄、佐々木、末川、滝川、田村、恒藤、森口の七教授、助教授大岩、講師加古、田中、助手森、副手浅井、松井清はのち京大経済学を卒業し国際経済学を専攻し教授となつたが惜しくも昭和四十七年六十歳で病没した。

七月一〇日松井総長が文部当局と協議の結果、即日総辞職した教授のうち佐々木、宮本英雄、宮本英脩、森口、末川、滝川の六名に對し依願免官の処置がとられた。

七月二十二日末広、中島、山田、鳥賀陽、渡辺、田中の六教授は辞表を撤回して教授の職に残留ときたまつた（残留組）。しかし田村、恒藤の二教授は、かかる取扱に反対し、自ら依願免官の手続きをとった（玉碎組）。

八月二日講師田中、加古、助手於保、大森、中田、森、副手石本、浅井の計八名に対し解職が発令された。松井元興博士は無機分析化

学が専攻で国際的にも知名の学究である。黒田武士の佐賀県出身で武家の血をひく決断力ある古武士

その後、同年中に宮本英脩が教授に復帰（復帰組）。

昭和九年、助教授黒田、大隅、佐伯、助手於保、大森、中田の六

名が復帰（復帰組）。

五月二十五日の教授会で辞意を表明した三十四名の教官の中で宮

本英雄、佐々木、末川、滝川、田村、恒藤、森口の七教授、助教授大岩、講師加古、田中、助手森、副手浅井、

松井清はのち京大経済学を卒業し国際経済学を専攻し教授となつたが惜しくも昭和四十七年六十歳で病没した。

七月一〇日松井総長が文部当局と協議の結果、即日総辞職した教

授のうち佐々木、宮本英雄、宮本

英脩、森口、末川、滝川の六名に

對し依願免官の処置がとられた。

七月二十二日末広、中島、山田、

鳥賀陽、渡辺、田中の六教授は辞

表を撤回して教授の職に残留と

きたまつた（残留組）。しかし田村、

恒藤の二教授は、かかる取扱に反

対し、自ら依願免官の手続きをと

った（玉碎組）。

八月二日講師田中、加古、助手

於保、大森、中田、森、副手石本、

浅井の計八名に対し解職が発令さ

れた。

であり資本主義国の日本で、法学部のない総合大学は無に等しく、また東大と競合しなければならぬ京大に、法学部を欠けば、京大はツメの無いカニの姿になることを彼はよく承知していたので敢斗したと思われる。学問の自由を守るこの戦いで文部当局の標的とされた滝川教授は時代の英雄にまつり

燎原文芸

黑住嘉輝

密約

うまうまとウサマビンラディンに逃げられて

サダメフセインに牙剥くブッシュ

密約は結ばれて、いん猫族の集会

上之卷 二詩殊邪蒙其史八十一

フジモリのペルー・チチンのロシア

発言のたびに株価下げる竹中某

経済オンチの金融大臣

終戦後マックアーサー命令による戦前思想弾圧で、学園を追放された学者を学園に復帰させよとの法令で、京大では法学部再建のため末川博士に学園復帰の要請がなされた。しかし末川博士は、その数日前に立命館大学総長に就任することを内諾したので要請を断つた。そこでおはちは滝川博士に回された滝川博士は京大に復帰し法学部長ついで総長に選出されて、いろいろ

ものもある（例えば民主主義科学者協会）。

が発禁され一騒ぎがあつたが、戦争に突入し、すべての文化活動は影を没した。しかし自由主義の伝統は戦時中も、めだたない文化サークルの形で学内に温存され、終戦後に新しい形、民主化運動として

自由主義は共産主義を育成する温床であるとの考え方は、戦前の権力者に共通のものであつた(戦後も?)。かくして京都大学内の自由主義的空気はようやくなくなりかけ、開戦前、反ナチズム雑誌「世界文化」

局を後押しする巨大な力（財界・軍部・官僚）との間で展開された

上げられたが、実戦は末川博士を頂点とする平和を愛し学問の自由

ろ苦勞はしたが華やかな晩年を送ることができた。

編集後記

昭和二十五年第五回京都府知事選挙で元京大経済学部教授蜷川虎三が民主戦線統一会議（民統）にかつがれて知事に当選した。当選後府議会で知事が選挙中に「反共は戦争前夜の声である」と発言した

問答があった。この問答は結局うやむやに終わつたが、長らく教官をしていた知事は京都帝大の生態には詳しいので定めし苦笑したことであろう。民統は社共両党、労組中小企業、文化団体の統一した選挙組織で選挙に際し最も活動したのは共産党であったので保守派が知事いじめに「反共・」を問題

として保守派議員と知事の間で珍問答があった。この問答は結局うやむやに終わったが、長らく教官をしていた知事は京都帝大の生態には詳しいので定めし苦笑したことであろう。民統は社共両党、労組中小企業、文化団体の統一した選挙組織で選挙に際し最も活動したのは共産党であつたので保守派が知事いじめに「反共・・」を問題としたのであつた。

さて新制京都大学の生態は戦後  
京大の教官を永くつとめた後学の  
士に書いてもらいたい。生態学の  
常識として主体的事情が明らかか

されないと環境条件の記述だけでは役に立ち興味のある生態はつかめないからである。  
（おわり）

(やまのうち としひこ 故人  
この執筆は一九七六年

元京大理學部講師・動物學)

会および会報については、  
左記へご連絡下さい。